

研究課題名	当院救急外来におけるアンダートリアージの要因
研究責任者名	広島大学病院 ECU 看護師長 板谷 恵美
研究期間	2022年2月25日(倫理委員会承認後)～2023年3月31日
対象者	<p>2021年4月から2021年10月の間に、広島大学病院救急外来を独歩<sup>※1</sup>で受診した患者さん。</p> <p>※1「独歩」… 一人で歩くこと。</p>
意義・目的	<p>救急外来に来院した患者に対して行う院内トリアージ<sup>※2</sup>は、患者に適切なタイミングでの治療介入を行う上で重要と言われており、現在は日本臨床救急医学会や日本救急看護学会などが中心となってCanadian Triage and Acuity Scale(CATS)をわが国の医療状況に合わせて改変し作成したJapan Triage and Acuity Scale(JTAS)による院内トリアージが普及してきています。</p> <p>トリアージシステムの導入後は、質の向上のために事後検証や分析を行い、分析結果をふまえた教育やシステムの改善が必要とされています。特にアンダートリアージ<sup>※3</sup>は、患者の予後を左右するため、その発生を減少させることが重要であると考えられています。</p> <p>今回、院内トリアージの精度向上に向けた教育支援や患者の救命率向上のため、当院救急外来におけるアンダートリアージの要因を明らかにするため、この研究を計画しました。本研究の結果は、院内トリアージの質向上に向けて、教育活動に生かせると考えています。さらに、注意すべきポイントが明確になり、アンダートリアージの減少にも期待できます。その結果、患者の救命率向上に繋がる可能性があると考えます。</p> <p>※2「トリアージ」… 多数の患者に対して、緊急度に応じて優先順位を付けること。</p> <p>※3「アンダートリアージ」… トリアージの際、適切な基準よりも低めの判断をしてしまうこと。</p>
方法	<p>本研究は、診療録(カルテ)情報を調査して行います。</p> <p>カルテから使用する内容は、バイタルサイン、主訴、性別、年齢、診療科、トリアージ看護師の経験年数、トリアージ看護師の救急外来経験年数です。</p> <p>ロジスティック回帰分析を行い、アンダートリアージの要因を分析します。(個人が特定される情報は解析に用いません)</p>
共同研究機関	ありません
試料・情報の管理責任者	広島大学病院 ECU 看護師長 板谷 恵美
個人情報の保護について	<p>調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心ください。研究に資料を提供したくない場合は、お申し出ください。お申し出いただいても不利益が生ずることはありません。</p>
問合せ・苦情等の窓口	

〒734-8551 広島市南区霞 1-2-3

T e l : 082-257-5586

広島大学病院 ECU 看護師長 板谷 恵美

研究機関：広島大学